

Forever Saul Leiter



ソール・ライター《薄紅色の傘》1950年代、
発色現像方式印刷 © Saul Leiter Foundation

ニューヨークが生んだ伝説の写真家

永遠の ソール・ライター

主催：Bunkamura、読売新聞社

協力：ソール・ライター財団、NTT東日本 後援：J-WAVE 企画協力：コンタクト

【会 期】2020年1月9日(木)～3月8日(日) ※1月21日(火)・2月18日(火)のみ休館

【開館時間】10:00～18:00(入館は17:30まで) 毎週金・土曜日は21:00まで(入館は20:30まで)

【お問合せ】Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

【ホームページ】www.bunkamura.co.jp

2020 1 9 thu 3 8 sun
休館日 1/21[火]・2/18[火]

美しい時代へ
東急グループ

渋谷東急本店横
Bunkamura ザ・ミュージアム

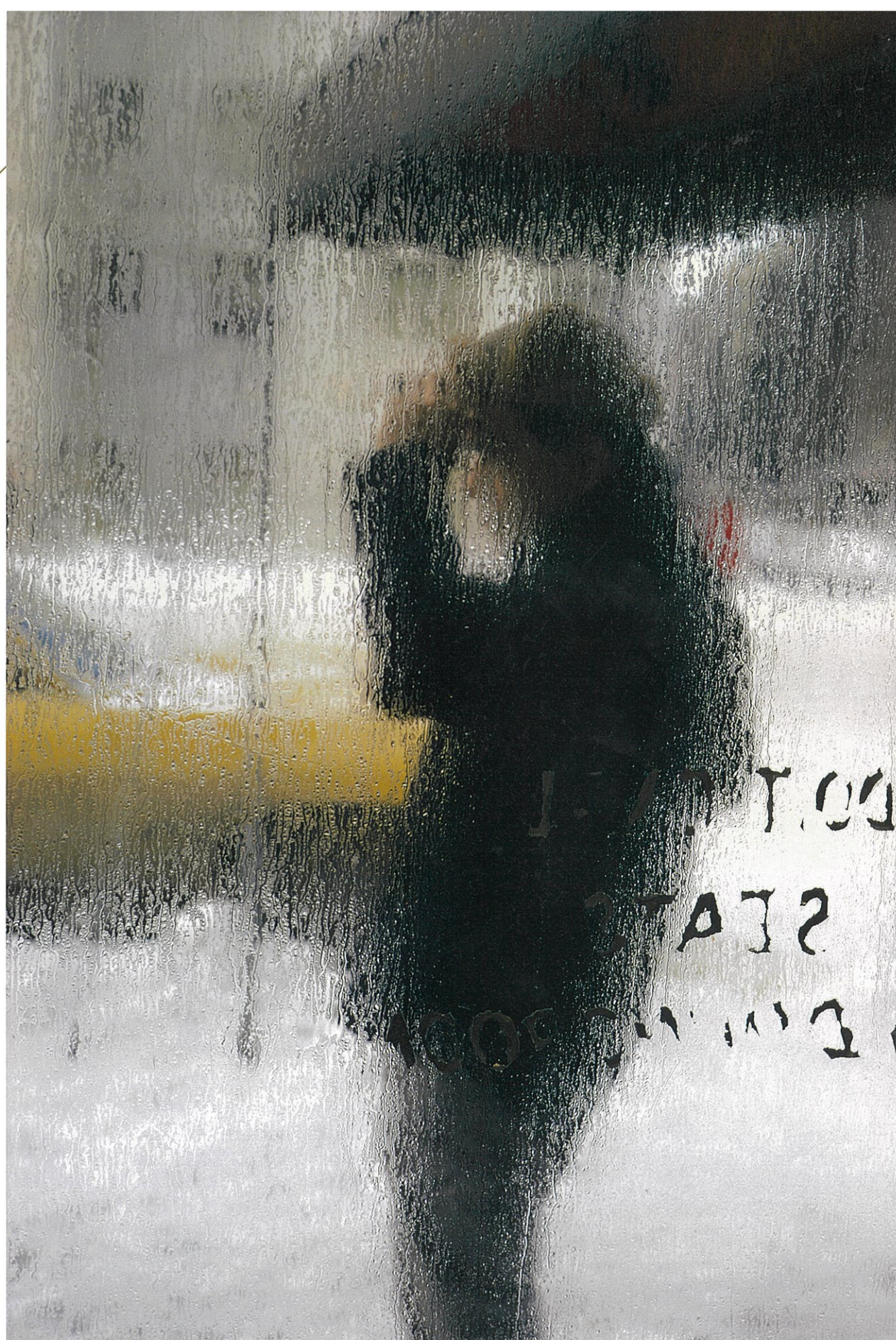
2020

19
thu

38
sun

休館日 1/21[火]・2/18[火]

Forever Saul Leiter



ニューヨークが生んだ伝説の写真家

ソール・ライター《椅子》1960年頃、
発色現像方式印画 © Saul Leiter Foundation

永遠のソール・ライター

主催：Bunkamura、読売新聞社

協力：ソール・ライター財団、NTT東日本 後援：J-WAVE 企画協力：コンタクト

【会 期】2020年1月9日(木)～3月8日(日) ※1月21日(火)・2月18日(火)のみ休館

【開館時間】10:00～18:00(入館は17:30まで) 毎週金・土曜日は21:00まで(入館は20:30まで)

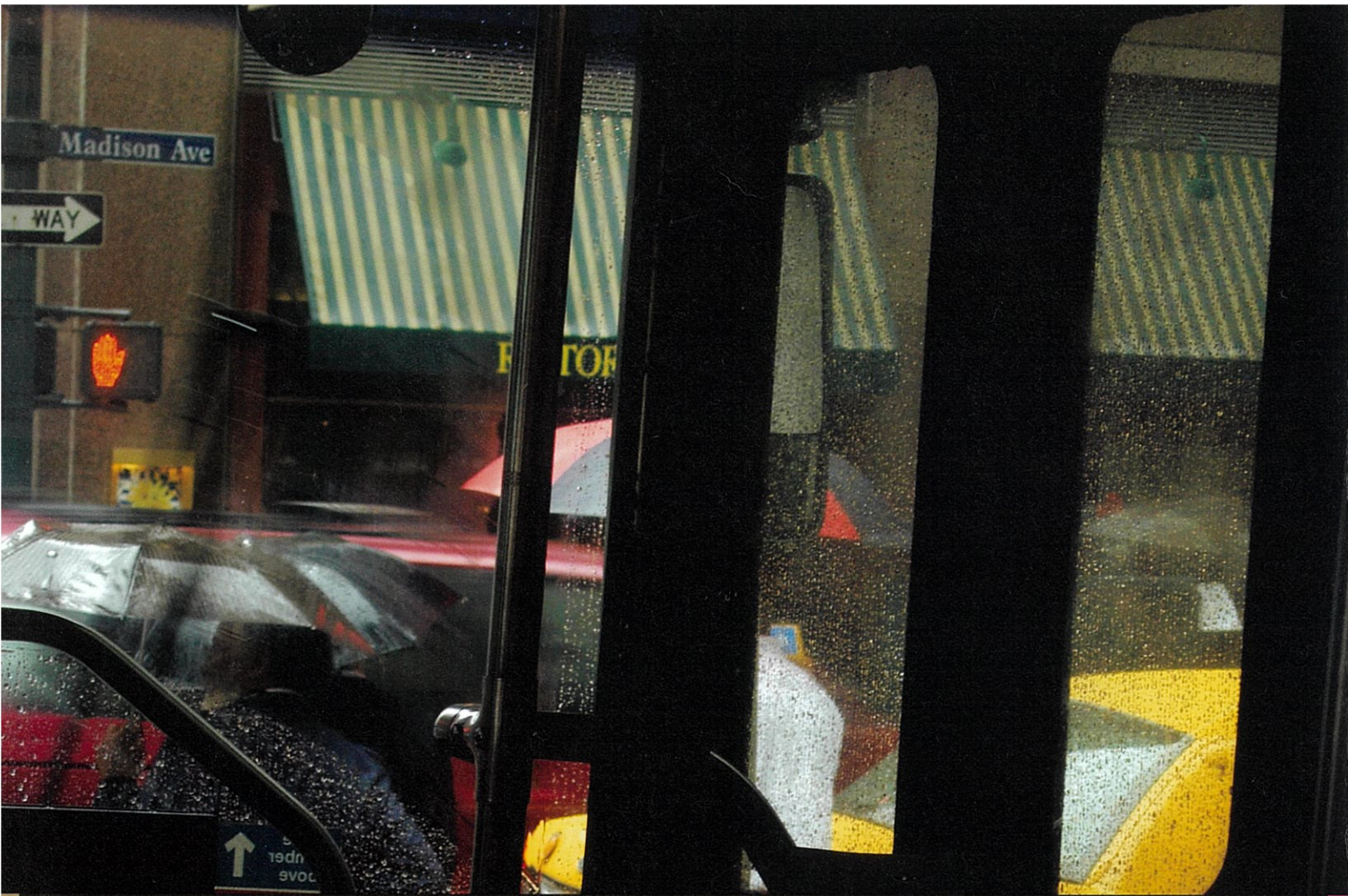
【お問合せ】Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

【ホームページ】www.bunkamura.co.jp

渋谷東急本店横

Bunkamura ザ・ミュージアム





ソール・ライター《バス》2004年頃。発色現像方式印刷 © Saul Leiter Foundation

Forever Saul Leiter

“I don't have a philosophy. I have a camera.” Saul Leiter
「私には哲学はない。私にはカメラがある。」ソール・ライター

2017年、Bunkamura ザ・ミュージアムで日本初の回顧展を開催し、大きな話題を呼んだ写真家ソール・ライター（1923-2013）。

1950年代からニューヨークで第一線のファッション写真家として活躍し、1980年代に商業写真から退いた後、世間から突如姿を消しました。ほとんど知られていなかった写真家の展覧会がこれほどの反響を巻き起こした背景には、画家として出発し、天性の色彩感覚によって「カラー写真のバイオニア」と呼ばれた個性と才能がありました。約8万点のカラー写真をはじめとする作品の大半を整理することなく世を去った写真家の「発掘作業」は今もなお、現在進行形で続けられています。

本展では、膨大な作品が眠るニューヨークのアーカイブから、世界初公開作品を含むモノクロ・カラー写真、カラースライド等の多くの作品を選びだし、デジタル技術を駆使して、知られざる一面を紐解きながらソール・ライターの更なる魅力をご紹介します。

尽きることのない、ソール・ライターの仕事をたずねてー

アーカイブ

◎団体は20名様以上。電話でのご予約をお願いいたします。(申込み先:Bunkamura Tel. 03-3477-9111)

◎学生券をお求めの場合は、学生証のご提示をお願いいたします。(小学生は除く)

◎障害者手帳のご提示で割引料金あり。詳細は窓口でお尋ねください。◎未就学児は入館無料。

Bunkamura ザ・ミュージアム (渋谷・東急本店横) 〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1

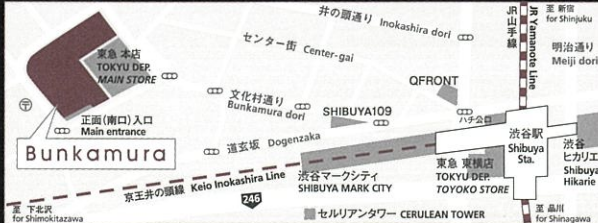
【お問合せ】Tel:03-5777-8600(ハローダイヤル)

【Bunkamuraホームページ】www.bunkamura.co.jp

●JR線/渋谷駅(ハチ公口)より徒歩7分 ●東京メトロ・銀座線・京王・井の頭線/渋谷駅より徒歩7分

●東急・東横線・田園都市線・東京メトロ・半蔵門線・副都心線/渋谷駅(A2出口)より徒歩5分

※当館には専用駐車場はございません。東急本店駐車場をご利用ください(有料)。



The World of Saul Leiter

ソール・ライターの世界

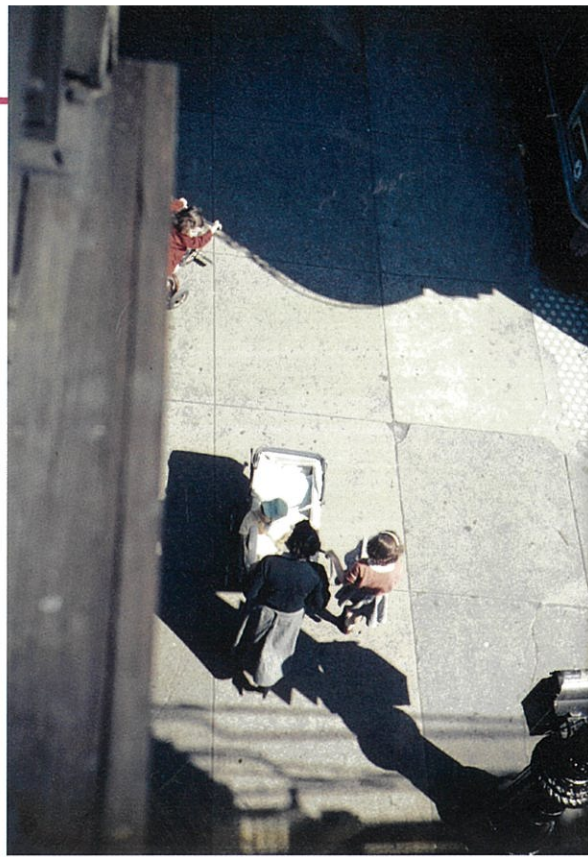
「カラー写真のバイオニア」と呼ばれたソール・ライターの代表作をはじめ、モノクロ、カラー作品をご紹介します。



ソール・ライター《『Harper's BAZAAR』》1959年2月号、発色現像方式印刷 © Saul Leiter Foundation



ソール・ライター《黄色いドット》1950年代、発色現像方式印刷 © Saul Leiter Foundation



ソール・ライター《高尾鉄道から》1955年頃、発色現像方式印刷 © Saul Leiter Foundation

Archive of Saul Leiter

ソール・ライターの仕事場



ソール・ライターのスタジオ、2010年1月撮影：マーギット・アープ

写真や絵画、資料類…。ソール・ライターの住んでいたアパートでは、数万点にも及ぶカラースライド等「宝の山」を目の前に、今も、現在進行形で「発掘作業」が続けられています。彼のアトリエに残された膨大な作品や資料の中から、小さな写真の断片、セルフ・ポートレート、ライターの愛した女性や家族などをキーワードに、ソール・ライターという「伝説」が生まれた背景を探ります。

セルフ・ポートレート



ソール・ライター《セルフ・ポートレート》1950年代、ゼラチンシルバープリント © Saul Leiter Foundation

愛した女性



ソール・ライター《ソームズ・バントリ》1950年代、発色現像方式印刷 © Saul Leiter Foundation

家族



ソール・ライター《デボラと一緒のセルフポートレート》1940年代、ゼラチンシルバープリント © Saul Leiter Foundation



ソール・ライター《無題》撮影年不詳、ゼラチンシルバープリント © Saul Leiter Foundation

スニペット

ソール・ライターは小さいサイズの写真に対する偏愛がありました。自ら撮影し小さなサイズに焼き付けた写真を手で破り、独特の質感を持たせた写真たちをスニペットと名付け、その大半が自分の愛する家族や恋人、知人、離猫といった愛するものたちの写真でした。

カラースライド・映像

生前、ソール・ライターは経済的な理由から撮影した写真をプリントせず、ライトボックスの上にスライドを並べて見つめる時間をとても大切にしていました。時には友人を招き、プロジェクターを使ってスライドショーにすることもありました。当時のカラー写真がどのように人々に親しまれていたのかをデジタル技術によって表現します。

記念講演会

【日時】2020年1月9日(木)19:00~20:30(予定)

【講師】マーギット・アープ氏
(ソール・ライター財団創設者、ディレクター)
マイケル・パリーロ氏
(ソール・ライター財団)

【会場】Bunkamura ザ・ミュージアム展示室内

【定員】40名/事前申込み/先着

【参加費】無料(要本展チケット提示、半券QRチケット可)

※申込み方法等、詳細は決定次第BunkamuraHPにてご案内いたします。

※予定は変更になる場合がございます。予めご了承ください。



Bunkamura ル・シネマで映画

『写真家ソール・ライター

急がない人生で見つけた13のこと』上映決定!

「人生で大切なことは、何を手に入れるかじゃない。何を捨てるかということだ」と語り、あえて名声から距離を置いて生きたソール・ライター。その人生がわれわれに問いかけるものとは?

2012年/イギリス・アメリカ/75分/カラー/配給:テレビマンユニオン
監督・撮影:トーマス・リーチ 日本語字幕:柴田元幸

料金:1,300円均一 ★ザ・ミュージアムの半券提示で1,100円

※上映スケジュールは決定次第BunkamuraHPにてお知らせいたします。

ニューヨークが生んだ
伝説の写真家

永遠の ソール・ライター

1 9 3 8
2020 / 1 / 21 [火] - 2 / 18 [火] 休館
thu sun

2020

thu

sun



ソール・ライター (異色の男) 1930年代 彩色写真の天才 Saul Leiter Foundation

主催：Bunkamura、読売新聞社 協力：ソール・ライター財団、NTT東日本 後援：J-WAVE 企画協力：コンタクト

【会 期】2020年1月9日(木)～3月8日(日) ※1月21日(火)・2月18日(火)のみ休館

【開館時間】10:00～18:00(入館は17:30まで) 毎週金・土曜日は21:00まで(入館は20:30まで)

【お問合せ】Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル) 【ホームページ】www.bunkamura.co.jp

Bunkamura ザ・ミュージアム



美しい時代へ
東急グループ

Forever Saul Leiter

ニューヨークが生んだ伝説の写真家

永遠のソール・ライター

Invitation
ご招待

料金別納郵便

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、Bunkamura、読売新聞社は、Bunkamura ザ・ミュージアムにおきまして「ニューヨークが生んだ伝説の写真家 永遠のソール・ライター」を開催する運びとなりました。

2017年、Bunkamura ザ・ミュージアムで日本初の回顧展を開催し、大きな話題を呼んだ写真家ソール・ライター(1923-2013)。1950年代からニューヨークで第一線のファッション写真家として活躍し、1980年代に商業写真から退いた後、世間から突如姿を消しました。ほとんど知られていなかった写真家の展覧会がこれほどの反響を巻き起こした背景には、画家として出発し、天性の色彩感覚によって「カラー写真のバイオニア」と呼ばれた個性と才能がありました。約8万点のカラー写真をはじめとする作品の大半を整理することなく世を去った写真家の「発掘作業」は今もなお、現在進行形で続けられています。本展では、ニューヨークの膨大なアーカイブから、世界初公開作品を含むモノクロ・カラー写真、カラーズライド等の多くの作品を選び出し、デジタル技術を駆使して、知られざる一面を紐解きながら、ソール・ライターの更なる魅力をご紹介します。

つきましては、本状をご招待状とさせていただきますので、ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。会期中2名様1回限りご入館いただけますので、会場入口にてお渡しください。 敬具

渋谷・東急本店横

Bunkamura ザ・ミュージアム

〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1

お問合せ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

www.bunkamura.co.jp

☐ Bunkamura ザ・ミュージアム 〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1☐ 読売新聞東京本社 事業局文化事業部 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1

Forever Saul Leiter

2020

7
22

[水]

9
28

[月]

休館日 8/18[火]・9/8[火]

アンコール
開催



ソール・ライター 《薄紅色の傘》 1950年代、発色現像方式印画 © Saul Leiter Foundation

ニューヨークが生んだ伝説の写真家

永遠の ソール・ライター

主催：Bunkamura、読売新聞社

協力：ソール・ライター財団

後援：J-WAVE

企画協力：コンタクト

〔開館時間〕 10:00—18:00(入館は17:30まで)

※金・土曜日の夜間開館はございません。

美しい時代へ——東急グループ



渋谷・東急百貨店本店横
Bunkamura ザ・ミュージアム

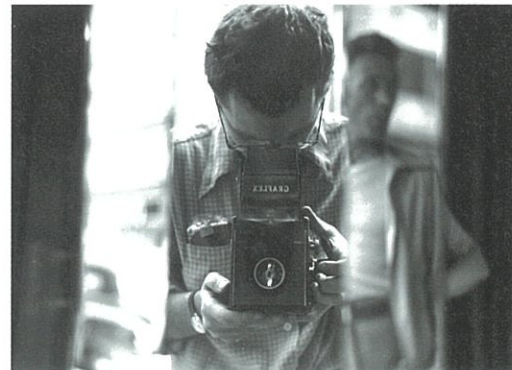
Forever Saul Leiter

“カラー写真のバイオニア”として、独自のアングルでニューヨークの日常を撮りつづけた、近年その魅力が再評価された写真家ソール・ライター。2017年、Bunkamura ザ・ミュージアムで日本初の回顧展を開催し大きな話題を呼びました。

さらに2020年1月には「永遠のソール・ライター」展を開催。2度目のブームを巻き起こしはじめたかのように思われていた矢先、新型コロナウイルスの影響で閉幕前に突然の中止を余儀なくされました。

ところが、彼の作品は数奇な運命を辿ります。作品の所蔵元であるソール・ライター財団（ライターが生涯愛したアトリエ兼アパートが、現在では財団事務所）があるニューヨークは、日本を大きく上回る感染者数の拡大に見舞われ、作品返却の目途が立つまで、日本で大切に保管されることとなり、日本美術をこよなく愛したソール・ライターの没後、「日本での回顧展開催」が大きな目標だった財団は、途中閉幕を余儀なくされた我々の気持ちを汲み、展覧会のアンコール開催が決定。展示室は一部、レイアウトを変更しながらも、前回の展示と同様、すべての作品を展示し、このたびアンコール開催となりました。

約8万点のカラー写真をはじめ、作品の大半を整理することなく世を去った写真家の「発掘作業」は、ソール・ライター財団により現在進行形で続けられています。本展では、ソール・ライターが愛し慈しみ、よく理解者であった妹のデボラや恋人のソームズ、愛し共に暮らした猫たちを被写体とした作品や、世界初公開となるソール・ライターの膨大なに残された未プリントフィルムのカラースライド（ソール・ライター財団によりデータ化）を展示。また、これまでほとんど紹介される機会をみなかった2000年以降に撮影されたデジタルカメラでの作品、自ら「芸術の到達点」と語ったスケッチなど、2017年の初回顧展時から新たに整理された作品・資料をメインに、人生を急がず、ぶれることのない生き方、独自の姿勢をつらぬいたソール・ライターの創作の背景、そして、その実像に迫ります。



ソール・ライター 《セルフ・ポートレート》1950年代、ゼラチンシルバー・プリント © Saul Leiter Foundation

私の写真が、人類の状況を改善することに貢献したことはないが、誰かに喜びを与えているとは信じていたい。

—— ソール・ライター

入館料（消費税込）	当日
一般	1,500円
大学・高校生	1,000円
中学・小学生	700円

◎学生券をお求めの場合は、学生証のご提示をお願いいたします。（小学生は除く）
◎障がい者手帳のご提示で割引料金あり。詳細は窓口でお尋ねください。
◎未就学児は入館無料。

Bunkamura ザ・ミュージアム（渋谷・東急百貨店本店横） 〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1 B1F

【お問合せ】Tel:03-5777-8600（ハローダイヤル）

【Bunkamuraホームページ】www.bunkamura.co.jp

◎JR線／渋谷駅（ハチ公口）より徒歩7分 ◎東京メトロ・銀座線、京王・井の頭線／渋谷駅より徒歩7分

◎東急・東横線・田園都市線、東京メトロ・半蔵門線・副都心線／渋谷駅A2出口より徒歩5分

※当館には専用駐車場はございません。東急百貨店本店駐車場をご利用ください。（有料）

◎当日券はオンラインチケット MY Bunkamura（QRチケットのみ）、Bunkamura ザ・ミュージアム＜BunkamuraB1F＞カウンターにて販売

◎8/8（土）以降の土日祝日に限り【オンラインによる入場日時予約】が必要となります。（7/30現在）

該当する日程にご来場の方はチケットの購入とは別に、日時予約のお手続きをお願いいたします。詳細はHPをご確認ください。

◎状況によって会期等は変更となる可能性もございます。最新の情報はHPで随時ご案内いたしますので、ご来場の際には事前のご確認を重ねてお願い申し上げます。

◎ソール・ライター撮影の出版作品につきましては、2020年1月開催「永遠のソール・ライター」と同一になりますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から

展示構成を一部変更しています。映像コンテンツ「スライド・プロジェクション」の上映はございませんが、スライド作品は形を変更してお楽しみいただけます。

◎2020年1月開催「永遠のソール・ライター」のチケット（全券種）はご利用いただけません。（払い戻し期間は終了しております。）

◎HP内「お客様へのお願い」をご確認いただきご来館のご協力をお願いいたします。



詳細はこちら
（展覧会HP）



Forever Saul Leiter

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2020 アソシエイト・プログラム
ニューヨークが生んだ伝説の写真家

永遠のソール・ライター



ソール・ライター《帽子》1960年頃、発色現象方式印画 ソール・ライター財団蔵 © Saul Leiter Foundation

2020 4.11^{sat} — 5.10^{sun} 会期中無休

開館時間＝10:00－20:00 入館締切＝閉館30分前 ※但し、百貨店の営業時間に準じ、変更になる場合がございます。

入館料[税込]＝一般1,000円(800円)／高・大学生800円(600円)／小・中学生600円(400円)

※()内は前売、当日「KYOTOGRAPHIEパスポート」をご提示の本人さま、および「障害者手帳」をご提示の本人さまとご同伴者1名さまの料金。2020年3月7日(土)より4月10日(金)まで前売券販売。

販売場所＝当館チケット窓口(休館日を除く)、京都駅ビルインフォメーション、チケットぴあ(Pコード992-653)、ローソンチケット(Lコード53223)など。

主催＝美術館「えき」KYOTO、読売新聞社 協力＝ソール・ライター財団、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 企画協力＝コンタクト、Bunkamura

美術館「えき」KYOTO Museum「EKI」KYOTO
JR京都駅下車すぐ・ジェイアール京都伊勢丹7階隣接

Forever Saul Leiter

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2020 アソシエイト・プログラム

ニューヨークが生んだ伝説の写真家 永遠のソール・ライター

私に写真が与えてくれたことのひとつ、それは、見ることの喜びだ。

One of the things photography has allowed me is to take pleasure in looking.



《薄紅色の傘》1950年代、発色現像方式印刷



無題、撮影年不詳、発色現像方式印刷

アメリカ・ペンシルバニア州に生まれたソール・ライター (1923-2013) は、1950年代からニューヨークで第一線のファッション・フォトグラファーとして活躍していましたが、1981年、5番街にあったスタジオを閉鎖し、表舞台から姿を消しました。しかし、2006年、ドイツのシュタイデル社から出版された初の写真集『Early Color』が大きな反響を呼び、各国で次々に展覧会が開催されるようになり、2013年にはドキュメンタリー映画が公開 (日本公開は2015年) されるなど、すでに80歳を超えていたソール・ライターは再び脚光を浴びることになったのです。2017年、日本で初めて開催された個展は、大きな話題となりました。天性の色彩感覚によって「カラー写真のパイオニア」と呼ばれた個性と才能は、彼が亡くなった今も生き続いています。本展では、2014年に創設されたソール・ライター財団が管理する膨大な作品資料のアーカイブから、選び抜かれた作品を展覧します。



《「ハーバーズ バザー」》1959年2月号、銀色素漂白方式印刷



《高架鉄道から》1955年頃、発色現像方式印刷



《レミイ》1950年代、ゼラチン・シルバー・プリント



《赤い傘》1958年頃、発色現像方式印刷

ソール・ライター財団蔵 © Saul Leiter Foundation

Gallery Talk

ギャラリー・トーク

会場=美術館「えき」KYOTO

開催日時=2020年4月12日(日) ①午前11時から ②午後2時から

ゲスト=佐藤正子氏(本展企画・コーディネーター)

※各回約30分 ※マイクを使用し、会場内を移動しながらお話しします。

※事前申し込み不要。ご参加は無料ですが、美術館入館券は必要です。

※混雑した場合は、入館制限をさせていただく場合がございます。

関連イベント

ドキュメンタリー映画

『写真家ソール・ライター 急がない人生で見つけた13のこと』上映決定!

(2012年/イギリス・アメリカ/75分/カラー/配給:テレビマンユニオン/監督・撮影:トーマス・リーチ/日本語字幕:柴田元幸)

上映期間=2020年4月18日(土)~4月24日(金)

上映館=京都シネマ (四条烏丸下るCOCON KARASUMA3F TEL 075-353-4723)

料金=一般 1,300円 ※展覧会の半券提示で、1,000円になります。

※上映スケジュール、各種料金等は上映館にお問い合わせください。

美術館「えき」

KYOTO

お問合せ ジェイアール京都伊勢丹 TEL 075(352)1111 (大代表)

美術館「えき」KYOTO 公式ホームページ <http://kyoto.wjr-isetan.co.jp/museum/>

※展示作品やイベント内容が変更、または中止になる場合がございます。予めご了承ください。



公式LINEアカウント

